

### a-3) コキクガシラコウモリ

#### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>6)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

#### ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州、伊豆七島、対馬、壱岐、屋久島、奄美大島、徳之島、沖永良部島に分布<sup>7)</sup>する。佐賀県では東松浦郡呼子町<sup>6)</sup>における記録がある。

昼間のねぐらは低地から低山帯上部までの洞窟、廃坑等<sup>7)</sup>である。夜間にガ、ガガンボ等の中、小型の昆虫を食べる<sup>7)</sup>。河川では水面、丘陵地帯では地面すれすれの場所での採餌が観察されている<sup>8)</sup>。また、主に樹林で採餌すると専門家から情報を得た。交尾期は 10 月～11 月<sup>7)</sup>で、翌春に受精<sup>7)</sup>し、妊娠期間約 3 カ月<sup>7)</sup>である。産子数 1 子、哺育期間約 35 日<sup>7)</sup>である。性成熟は生後 2 年数カ月で、初産年齢は 3 歳<sup>7)</sup>である。数十頭～数百頭の哺育集団を形成する<sup>7)</sup>。

#### iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-3(3)に示す。

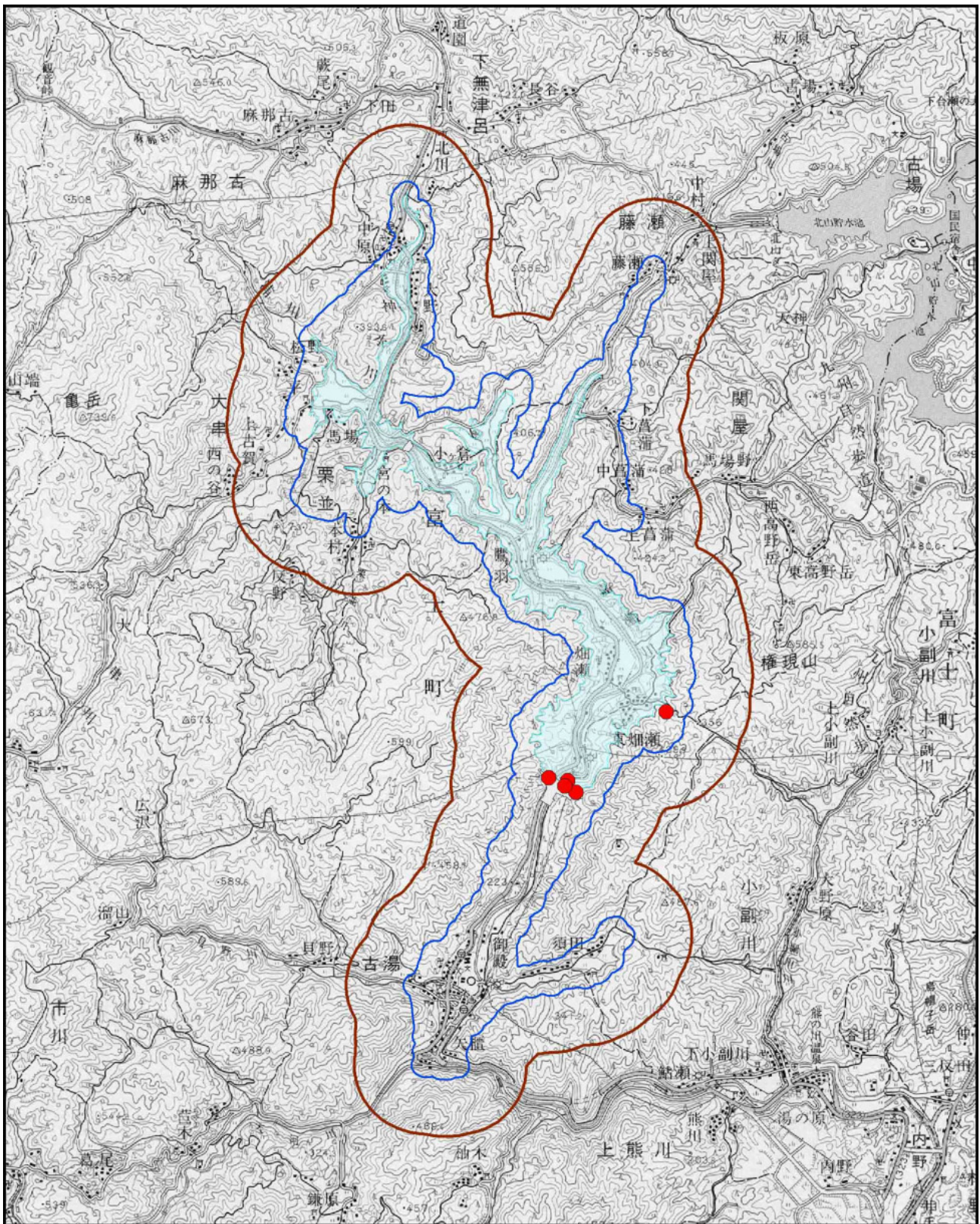
本種は、平成 14 年度及び 15 年度の調査において、ダム建設予定地及び原石山の横坑 5 地点で生息が確認された。

また、平成 15 年度の冬季の環境巡視において、これらの横坑のうちの 1 地点で生息が確認された記録がある。







確認地点は、事業により設置された横坑であった。秋季、冬季の調査で、多いところでは 1 つの横坑で 12 個体が確認された。ただし、出産、哺育期である初夏に調査を行ったところ、本種の生息は確認されなかった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、事業により設置された横坑を秋季から春季にかけての越冬環境(ねぐら)として利用し、繁殖期に

は近傍の洞窟に移動し、集団繁殖していると考えられ、小型昆虫類が生息する樹林及び河川を採餌場として利用していると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

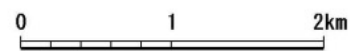


図4.1.5-3(3)  
コキクガシラコウモリ確認地点

b) 鳥類の重要な種

鳥類の重要な種の確認状況を表 4.1.5-11 に示す。

表 4.1.5-11 鳥類の重要な種の確認状況(1/2)

目名	科名	種名	確認方法	確認年度
コウノトリ	サギ	ミゾゴイ	鳴き声	平成 15 年度
		ササゴイ	目撃	平成 5 年度、11 年度、14 年度
		チュウサギ	目撃	平成 6 年度
カモ	カモ	オシドリ	目撃	平成 6 年度、9 年度、10 年度、13 年度、14 年度
タカ	タカ	ミサゴ	目撃	平成 9 年度、13 年度、14 年度
		ハチクマ	目撃	平成 9 年度、14 年度
		オオタカ	目撃	平成 7 年度、13 年度
		ツミ	目撃	平成 13 年度、14 年度
		ハイタカ	目撃	平成 6 年度、7 年度、9 年度、11 年度、13 年度、14 年度
		サシバ	目撃	平成 6 年度、9 年度、12 年度～15 年度
	チュウヒ	目撃	平成 13 年度	
	ハヤブサ	ハヤブサ	目撃	平成 5 年度
キジ	キジ	アカヤマドリ	目撃	平成 5 年度、10 年度、14 年度
ツル	クイナ	クイナ	-	平成 6 年度、15 年度
チドリ	シギ	オオジシギ	-	平成 6 年度
フクロウ	フクロウ	アオバズク	目撃、鳴き声	平成 11 年度、14 年度、15 年度
		フクロウ	目撃、鳴き声	平成 14 年度、15 年度
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	鳴き声	平成 15 年度
ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	目撃	昭和 60 年度、61 年度、平成 5 年度、6 年度、8 年度～11 年度、13 年度～15 年度
		アカショウビン	鳴き声	平成 14 年度、15 年度
		カワセミ	目撃	昭和 61 年度、平成 5 年度～7 年度、9 年度、11 年度、13 年度～15 年度
	ブッポウソウ	ブッポウソウ	目撃	平成 15 年度

注) - : 確認方法が不明であることを示す。

表 4.1.5-11 鳥類の重要な種の確認状況(2/2)

目名	科名	種名	確認方法	確認年度
キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	目撃	平成 14 年度
スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	鳴き声	平成 15 年度
	カワガラス	カワガラス	目撃	昭和 60 年度、平成 5 年度～11 年度、13 年度～15 年度
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	鳴き声	平成 15 年度

b-1) ミゾゴイ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 2 鳥類(環境省 2002 年 8 月)」<sup>2)</sup>に準絶滅危惧、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>6)</sup>に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、日本では、夏鳥として渡来して、本州から九州及び伊豆諸島の低山帯で繁殖する<sup>10)</sup>。冬期は台湾やフィリピンで過ごすが、西南日本で越冬するものもある<sup>10)</sup>。佐賀県内では、経ヶ岳、脊振山系、巖木町、黒髪山<sup>6)</sup>における記録がある。

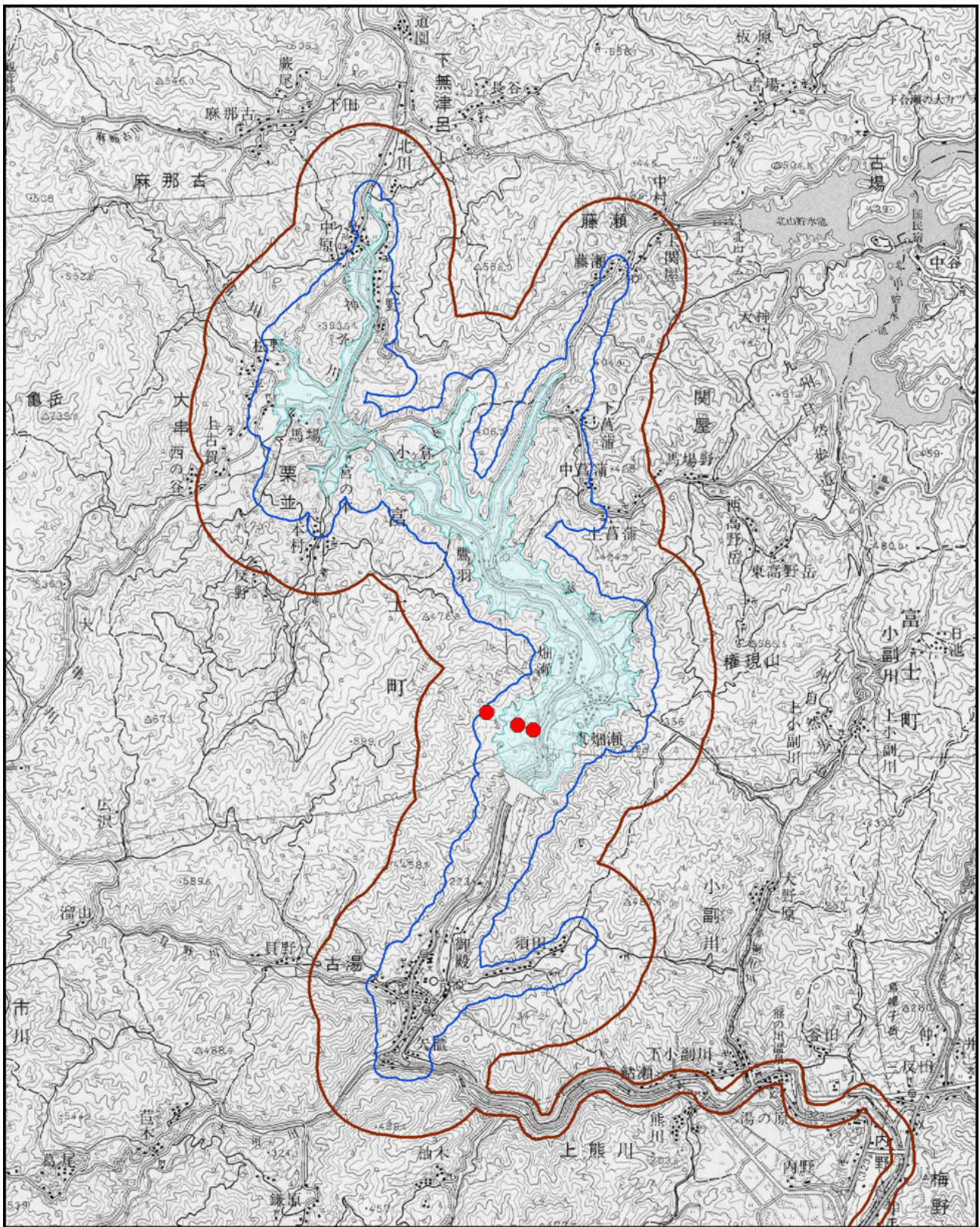
低山帯の斜面の雑木林に生息する<sup>11)</sup>。山間部の池の水辺や、林中の沢等で、サワガニ、ミミズ等を捕える<sup>10)11)</sup>。単独で行動し、夜行性である<sup>11)</sup>。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-4(1)に示す。

本種は、重要な種を対象とした平成 15 年度 6 月上旬の調査において、畑瀬地区の西畑瀬集落南西周辺の沢筋で鳴き声が確認された。確認地点の環境は、スギ・ヒノキ植林であった。その後、繁殖地に定着している時期である 6 月中旬の調査時には鳴き声は確認されず、西畑瀬集落南西周辺の沢筋を網羅するように林内を踏査したが、本種は確認できなかった。

生態情報及び確認状況から、確認された個体は、脊振山等の繁殖地への移動途中に確認された個体であり、当該地域内で本種が繁殖している可能性は低いと考えられる。



凡 例

- : ダム堤体
- : 副ダム
- : 貯水予定区域
- : 対象事業実施区域
- : 調査地域
- : 確認地点



1:50,000

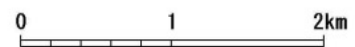


図4.1.5-4(1)  
ミゾゴイ確認地点

## b-2) ササゴイ

### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>6)</sup>に絶滅危惧Ⅰ類種として掲載されている。

### ii) 生態

本種は、夏鳥として 4 月ごろ渡来し、本州から九州の各地で繁殖する<sup>12)</sup>。九州南部には冬にとどまるものがある<sup>12)</sup>。佐賀県内では鹿島市中川中流域(繁殖)、北波多村徳須恵川(繁殖)、浜玉町から七山村の玉島川、多久市牛津川、巖木川<sup>6)</sup>における記録があり、佐賀県では夏鳥<sup>13)</sup>とされている。

水田、湖沼、河原、ヨシ原等、低地や平地の水辺に生息する<sup>12)</sup>。時には海岸でも見られる<sup>12)</sup>。見通しの良い水辺で餌を探ることが多く<sup>12)</sup>、魚以外にカエルやアメリカザリガニ、水生昆虫も食べる<sup>12)</sup>。繁殖期は 4 月～7 月、年に 1 回の繁殖が普通<sup>12)</sup>である。水辺近くのカワヤナギ、雑木林、マツ、スギ等の樹上に巣をつくる<sup>12)</sup>。雄は自分の体長くらいの長さの枯れ枝を運び、巣の上にいる雌に渡す<sup>12)</sup>。雌はその枯れ枝を組んで皿形の巣を作る<sup>12)</sup>。

### iii) 調査結果

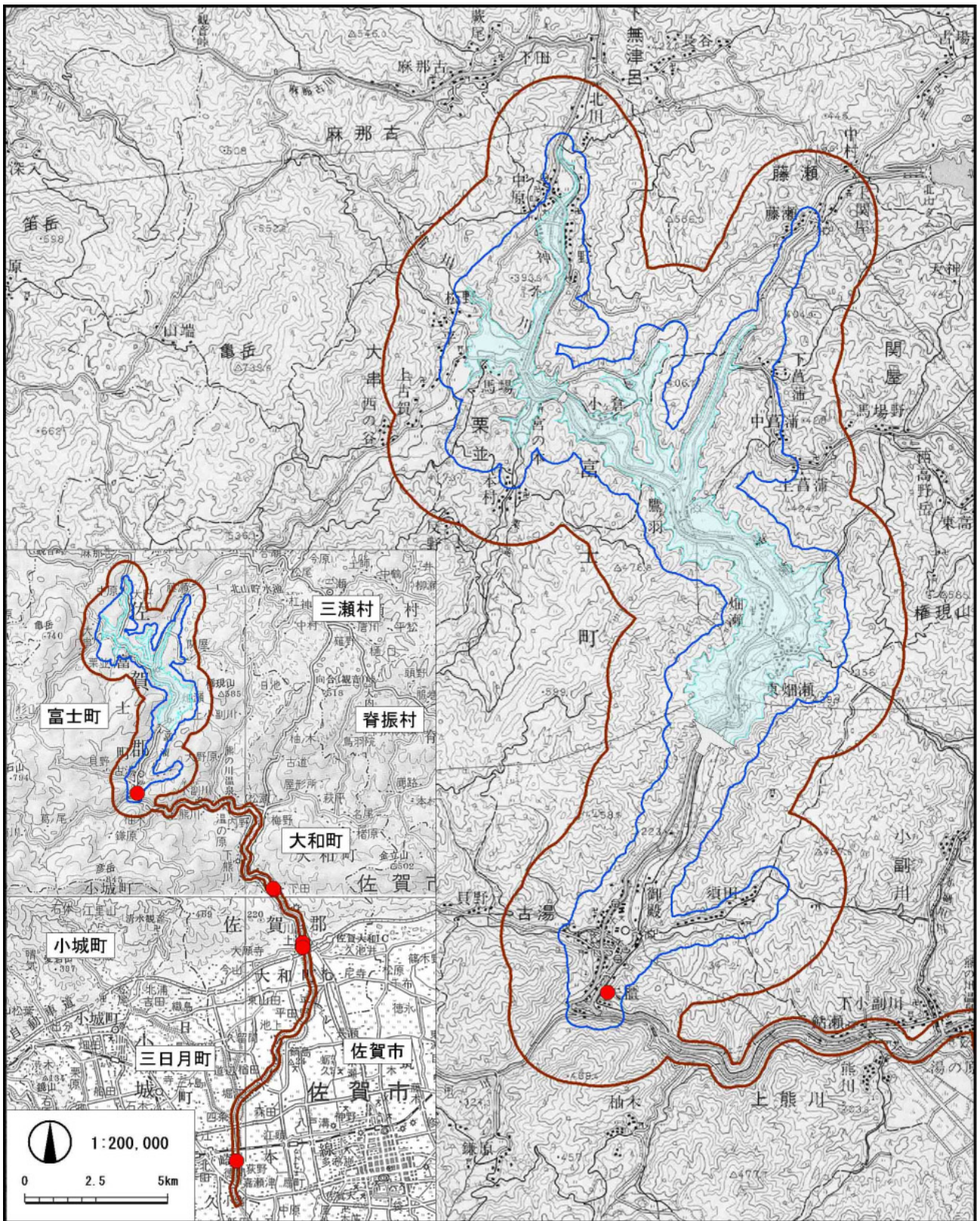
調査による確認地点を図 4.1.5-4(2)に示す。







本種は、平成 14 年度の調査において、嘉瀬川の八反原集落周辺 2 地点で生息が確認された。また、平成 11 年度の環境巡視において、小副川地区の矢櫃集落北の斜面 1 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 5 年度に川上頭首工上流付近、平成 11 年度に嘉瀬橋上流付近の経路上で確認された記録がある。

確認地点の環境は、河川の砂礫地、人工構造物等であり、嘉瀬川の八反原集落周辺では、砂礫地での採餌行動が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に河川敷や水田に生息すると考えられる。





- 凡 例
-  : ダム堤体
  -  : 副ダム
  -  : 貯水予定区域
  -  : 対象事業実施区域
  -  : 調査地域
  -  : 確認地点

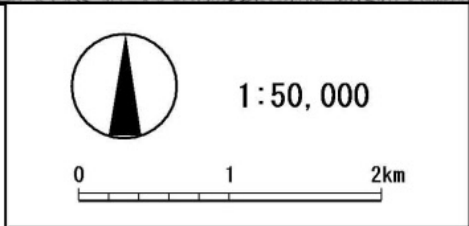


図4.1.5-4(2)  
ササゴイ確認地点

### b-3) チュウサギ

#### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 2 鳥類(環境省 2002 年 8 月)」<sup>2)</sup>に準絶滅危惧として掲載されている。

#### ii) 生態

本種は、夏鳥としてフィリピン方面から渡来し、本州から九州までの各地で繁殖する<sup>12)</sup>。佐賀県内では佐賀市城内公園、佐賀郡川副町平和搦(有明海)、唐津市松浦川、虹の松原、鏡山における記録がある<sup>14)</sup>。佐賀県では夏鳥<sup>13)</sup>とされる。

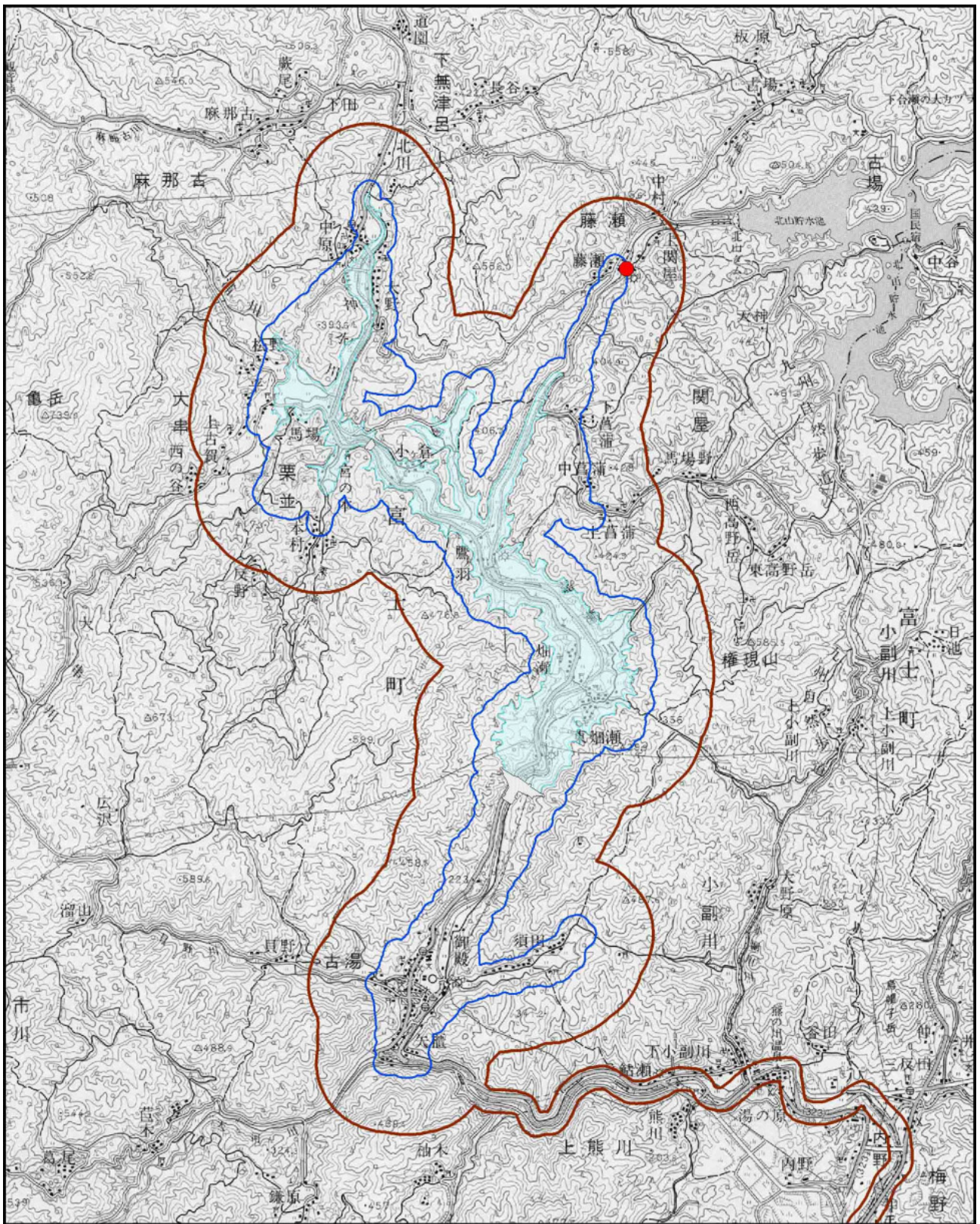
平地の水田、湿地、ときには大きな川に生息する<sup>12)</sup>。昆虫、クモ類、ドジョウやフナ等の魚類、アメリカザリガニ等の甲殻類、カエル等の両生類を食べる<sup>12)</sup>。繁殖期は4月~9月、年に1回の繁殖が普通<sup>12)</sup>である。マツ林、雑木林、竹林等でコロニーを作る<sup>12)</sup>。枯れ枝等を用いて粗雑な皿形の巣をつくる<sup>12)</sup>。

#### iii) 調査結果







調査による確認地点を図4.1.5-4(3)に示す。

本種は、平成6年度の調査において、嘉瀬川の新小関橋上流で2個体が確認された。

本種は、対象事業実施区域及びその周辺の区域における確認例が少なく、繁殖は確認されていない。生態情報から、本種の主な生息環境と考えられる平地の水田、大きな川等の環境は当該地域内に存在しない。また、秋季に確認されていることから渡りの時期に休息している個体が偶然確認されたと考えられ、繁殖の可能性も低く、本種は当該地域を主な生息地としていないと考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-4(3)  
チュウサギ確認地点